

退任挨拶

澤田 桂子

退任前に常任委員への誘いを受け、あっという間の二年間で。定例の事務局会や編集委員会、その後は夜の飲み会へと流れ、その場では社会情勢や世俗のことについて盛り上がり、楽しいひとりで退任した。この度、事情により退任いたします。

今後は一会員として、学習活動に積極的に参加し、特に医療・介護・保険制度などについて学びたいと思います。今後ともよろしくお願います。

お世話になりました

武田 豊

退職して5年、事務局員としてボツボツとやってきました。この間、主にニュース編集、高校教研、ホームページ作成を担当。ニュース編集では、会員の方の投稿に支えられ、いろいろありながらも何とか発行できました。丁度200号記念の節目の年に担当したこと何かが縁でしょうね。

ニュース編集のために記事を読み込むのですが横田慧さんの記事がとても印象に残っています。改めて高退協会員の素晴らしさを認識した次第です。400名近い会員なので色々な活動をしていられると思います。私のアンテナの範囲が狭く十分に吸い上げられ

れていないのが残念です。事務局は卒業しますが協力出来るところも少しはあるかと思えますので可能な範囲でやるつもりです。

役員挨拶

川村 喜美

今年3月末で定年退職を迎え、高退協に加入させていただきました。高退協の先輩方は私自身が青年部時代に強く影響を受けた方ばかりで、教員として成長させてくださいました。退職後も信念をもって、ゆるぎなく活動される姿

三十五周年を祝って

シーズンⅡ

室生寺 門前の茶屋

松山 和雄

ひとそれぞれに旅先でのお気に入りの食べ物があるだろう。ワタシは奈良に行く时必须「柿の葉寿司」を懐かしう食べている。

四〇年ほど前の春、高知港でワタシの車に男四人が乗り込み、大阪南港から四天王寺を皮切りに、飛鳥・奈良を巡る旅に出た。旅の最終日、室生寺の駐車場にいたのはちやうどお昼時、清らかな室生川に架かる朱塗りの橋のたもと右手には「橋本屋旅館」があ

り、格式のある玄関脇には「蕎麦」の木札が立っている。その向いの小ぶりで寂びた茶屋のガラス戸にもまた「蕎麦」の文字が見える。

さてどちらに入ろうかと迷っているとき、「蕎麦はやっぱりこういふ古びた方が美味しいもんだよ！」とのジュンさんの一言で、小ぶりで寂びた茶屋の暖簾をくぐった。

店の中には先客はいない。奥に声をかけると、この店の雰囲気によく似合った年配の女性がコーヒー色のお茶を出してくれた。「ジュンさん大丈夫かえ？」カド兄イが心配そうに訊く。「蕎麦を打つには年季がいるがよ！」ジュンさんがすかさず返す。

やがて女性が大きなお盆に四杯の蕎麦を載せてテーブルの端に置くと、片手でどんぶりをしっかりと掴んでワタシ

たちの前に置いてゆく。見れば、どんぶりをつかんだ手の親指は、これまたしっかりと蕎麦ツユの中に入っている。女性が奥に消えると、すかさず「見たかえ?!」カド兄イがジュンさんとワタシを見て言った。「細かいことより蕎麦は味が命よ、早よう食べな〜味が落ちるぜ!!」ジュンさんの一言で箸の上げ下げが始まった。が、その言葉が最後にジュンさんはめっきりと静かになった。うす暗い食堂に蕎麦を力なく啜る音だけが聞こえた。

帰路、奈良の近鉄駅前まで来た時に、口数の少なくなっていたジュンさんが「ちよっと停めて! 柿の葉寿司を買いたいぞ!」と言って大通りを横切って奈良まち通りかどの寿司店に入っていた。

その夜のフェリーの中で食べた「柿の葉寿司」は初めてなのに懐かし、本当に美味しかった。好きな酒の勢いもあってか、いつもの饒舌なジュンさんが復活していた。

四〇年ほど前の春の懐かしい旅だった。

出演
ジュンさん 山本淳一郎
シュウさん 岡村修
カド兄イ 門田博行
ワタシ 松山和雄
(安芸工業高校の皆さん)

現在「小ぶりで寂びた」茶屋は「小奇麗な」橋本旅館の食堂になり、「柿の葉寿司」の店はパン屋になっている。

ケーナ大好き

川村かつ枝

こんにちは。6月12日は高知市の母親大会でした。たくさんのご協力で開催できました。ありがとうございます。役員をやっているのもその前は少し忙しい思いをしていました。でも、これからは7月24日の高知県下のケーナグループの発表会(カフェレストラン カンフーレにて)に向けて練習です。

その前にも7月9日帯屋町の大丸前で土曜夜市の出しものとして8時から30分間演奏します。よかったら聴きにきてください。もちろん発表会にも聴きにきていただくとうれしいです。こちらは夕食付ですので予約してください。

さて、今日は私たちフォルクローレの演奏に使う楽器を紹介します。

写真左はサンポーニャといい、1つの管から1音しか出ません。



小さいものから、チュリ、マルタ、サンカ、トヨスです。よく使うのはマルタです。写真右端がA管ケー

ナ、次が普通のG管ケーナ、それから順に、D管ケーナーチョ、C管ケーナーチョ、ママケーナです。ケーナは名人が吹くと同じ指使いで3オクターブは出ます。それで最低音をさげることによって様々な曲が演奏できます。

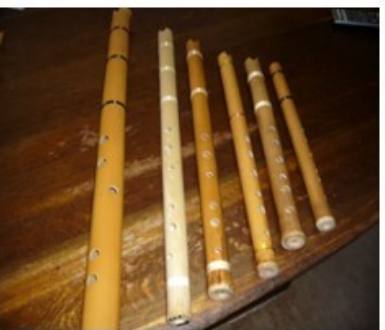
私はあきらめました。ギターとチャランゴです。リズム楽器はボンボと言います。私もたたきます。

さて、こんな楽器で何を演奏するのと言われてそうですが、一番知られているのは「コンドルは飛んでいく」です。「花祭り」もご存知かしら。

でも、日本の唄も演奏できます。ママの医療生協の地域交流広場「キラリ」でも昨暮から仲間にしていただいて月1度演奏しています。その時はケーナは敬遠されるのもっぱらケーナーチョとサンポーニャです。

ケーナは名人が奏でるしっとりと心に響く音色は秀逸です。私もそんな音色をめざして日々練習です。毎日、音だしをしないと出なくなるので、嫌がられつつも音を出して楽しんでます。

趣味悠々



小さいものから、チュリ、マルタ、サンカ、トヨスです。よく使うのはマルタです。写真右端がA管ケー